善福寺川流域治水フォーラムについて

水害を身近な課題として捉え、
流域全体で考え、行動につなげる

杉並区 都市整備部 土木担当部長　三浦 純悦

善福寺川流域で繰り返される水害

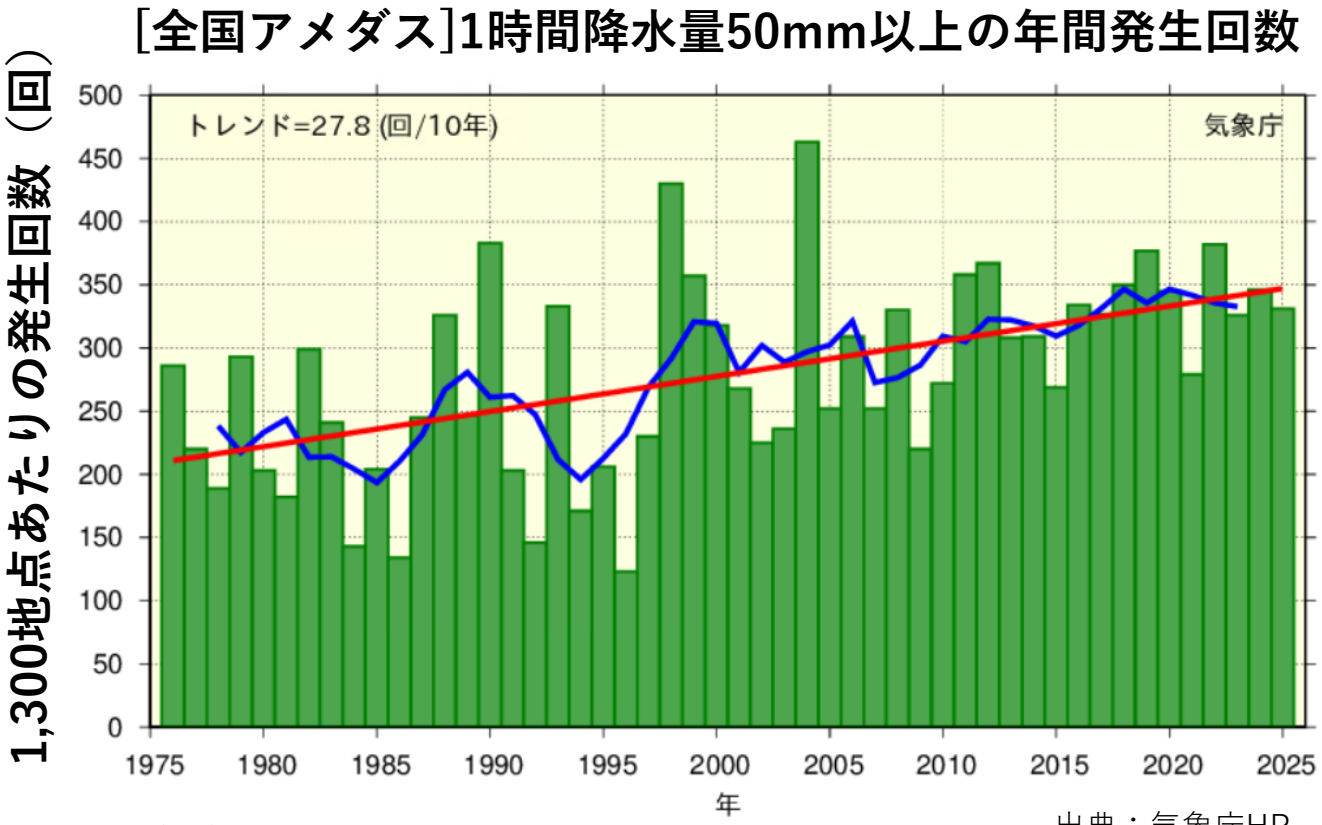


平成17年9月4日の大雨

1時間最大	112ミリ
総雨量	263ミリ
浸水被害	約1,600棟

善福寺川流域では、過去から浸水被害が繰り返されてきました。
この経験を将来の備えにどう生かすかが、区の課題です。

近年の豪雨は他人事ではない



出典：気象庁HP

（緑）各年の年間発生回数
（青）5年移動平均値
（赤）長期変化傾向（この期間の平均的な変化傾向）



生成AIにより作成

近年、日本全国で短時間に降る強い雨の回数が増加しています。
水害は、過去の出来事ではなく、今、私たちが向き合う課題です。

「治水対策」の方向性

出典：国土交通省HP

国



流域のあらゆる関係者が協働し、
ハード・ソフト一体で水害リスクを減らす

出典：東京都豪雨対策基本方針

都



河川・下水道・流域対策・まちづくり・避難
を組み合わせて水害対策を推進

河川・下水道の基幹整備を進めながら、
まち・敷地で雨をため、地域で備える取組を重ねる

なぜこのフォーラムを開催するのか

繰り返す浸水被害

過去の経験を将来の備えへ

近年の豪雨

変化する雨に向き合う

治水への高い関心

個別事業を越え全体像を共有

現状と課題を分かりやすく共有し、疑問や意見を「対話」につなげる

フォーラムが目指すもの



生成AIにより作成

理解 流域治水と役割を知る

対話 疑問や意見を共有する

行動 できる取組につなげる

「知る」から「考える」「行動する」へ

本日

共有



来年度以降

対話



検証



流域全体へ

知る

現状・課題と流域治水を共有

考える

家庭・地域・事業者など、各々でできることを考える

行動する

モデル的に実践し、効果・課題を見える化

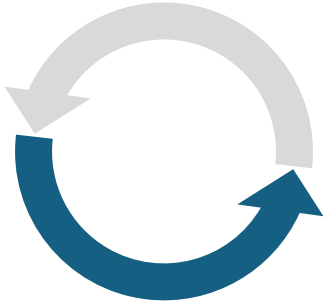
流域治水への参加を広げる今後の取組

専門的な検討と区民との対話を往復させ、取組を実践へつなげる

杉並区・専門家

流域治水の理解と参加を広げるために、
モデル地区での対策と効果の見える化

- 基礎データを整理
- モデル地区で対策を検討
- 効果・課題を検証し、見える化



善福寺川流域治水フォーラム

取組と効果を分かりやすく共有し、
参加を広げる

- 取組内容・効果を知る
- 対話を通じて自ら考える
- できることから行動する

モデル地区で得た知見を、他地域のまちづくりや区民の実践へ段階的に広げる

「共有 → 対話 → 実践 → 検証 → 改善」の循環をつくります

モデル地区内での取組イメージ

取組イメージ



家庭で取り組める対策例

雨庭



雨樋の水を
雨庭に導き、
雨水をゆっくり
浸透させます。

プランター



プランターや
植栽で雨水を受け止め、
蒸発・浸透を
促します。

雨水タンク



雨水タンクに貯めて
散水などに活用し、
流出を抑えます。

生成AIにより作成

見える化するもの

- 雨水の流れの変化
- 治水効果
- 景観・みどり・暑熱対策
- コスト・維持管理・実現可能性

など

「何を設置したか」だけでなく、効果と課題を検証し、他地区へ展開・反映します。

本日の流れ

「何を知るか」だけでなく、
「自分や地域で何を考えるか」
という視点でご参加ください。

01

専門家講演

流域治水の基本
浸水の仕組み・対策の関係

02

取組紹介

河川・下水道・区の対策
グリーンインフラ・教育

03

パネルディスカッション

善福寺川流域の流域治水を
幅広い視点から考える